

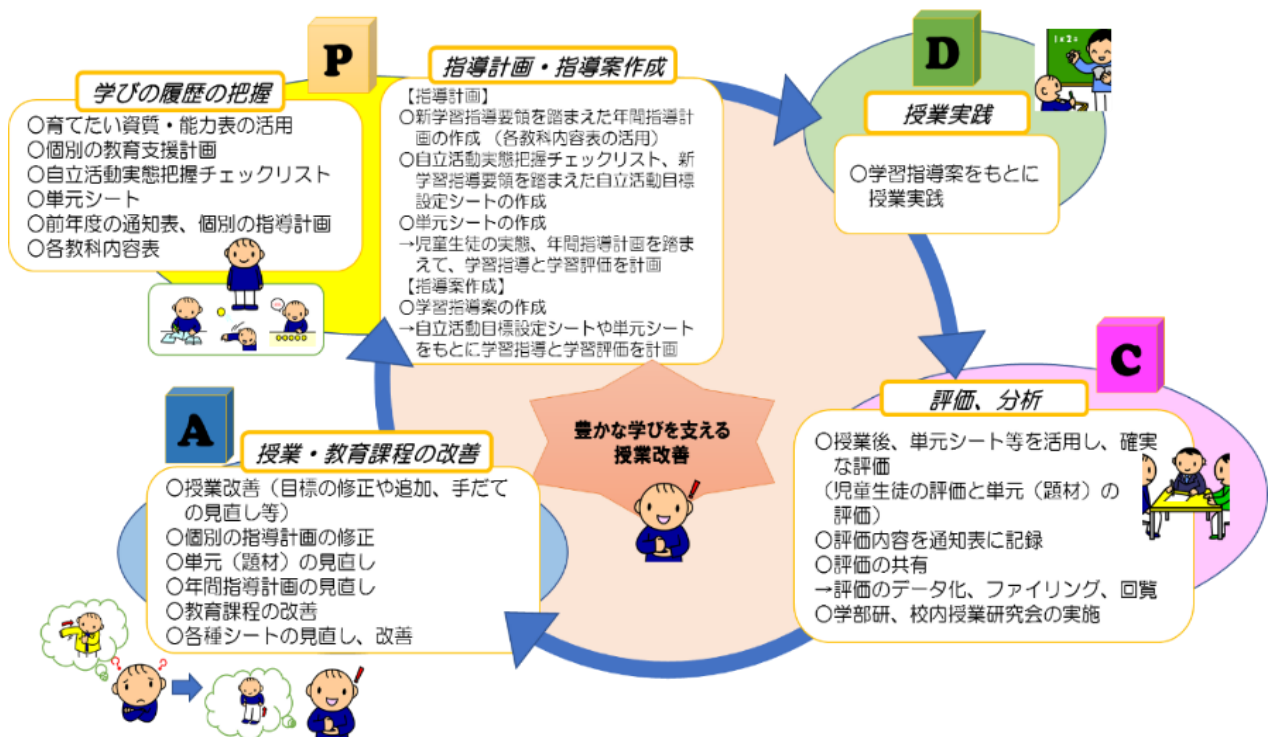
Ⅰ 本校の特色
〈持ち味〉

- 若い教職員が多く、エネルギーに溢れている。
- 自然豊かな環境に恵まれており、地域とのつながりも強い。(コミュニティ・スクールの取組、学校間交流等)
- 本校の教育活動に協力的な保護者や関係機関が多く、「学校が楽しい」と感じている児童生徒が多い。

〈課題〉

- 若い教職員が多く、また、中心地から離れている地理的な課題によって、授業の質向上にかかる視野の広さが限定的である。
- 近隣に商業施設や公共施設が少なく、また、交通機関が整っていないため、児童生徒の生活経験が乏しい。
- 高等部移転(令和4年度4月)により、小中高のつながりを絶たない取組を要する。

2 研究の流れ



【本校のカリキュラム・マネジメントにおけるPDCAサイクル】

平成30年度、令和元年度の2年間は、「カリキュラム・マネジメント」のツールとして、「学びの履歴」の研究を行いました。主に一人一人の児童生徒の、日々の授業記録を「学びの履歴」として残し、同時に目標や評価の担任間における共通理解や、評価を通知表作成に容易に活用できることを目指した「単元シート」の追究を行いました。これらはPDCAサイクルの「C」に重きを置いた研究と言えます。

2年間の研究を終え、本校がもつ課題と改めて向き合った際に、職員の「授業実践力」を高めなければ、どれだけ精度の高い「C(評価)」が実現できても、児童生徒の将来の自己実現を図ることは困難ではないか、と考えました。結果として、令和2～4年は職員の授業実践力すなわち、PDCAの「D(実践)」の充実に主眼を置いて研修に取り組むことに至りました。

2 研究のテーマ

令和2年度

児童生徒の「わかった!」「できた!」「活用できた!」の実現に向けた授業づくり
～学部を越えた授業研究会を通して～

令和3年度、4年度

児童生徒の「わかった!」「できた!」「活用できた!」の実現に向けた授業づくり
～学習内容の定着を目指した「学びのあしあと」の充実～

本校では、授業実践力の向上を、「授業力アップ」という合言葉にして研究に臨んでいます。以下、本校の研究における用語の定義になります。

授業力アップ

児童生徒一人一人の課題に即し、その上で「わかった!」「できた!」「活用できた!」につながる授業を行う力が向上すること

「わかった!」

1つの答えにたどり着くまでの工程を理解し、自分の考えを説明したり、選択肢から選んだりすること

「できた!」

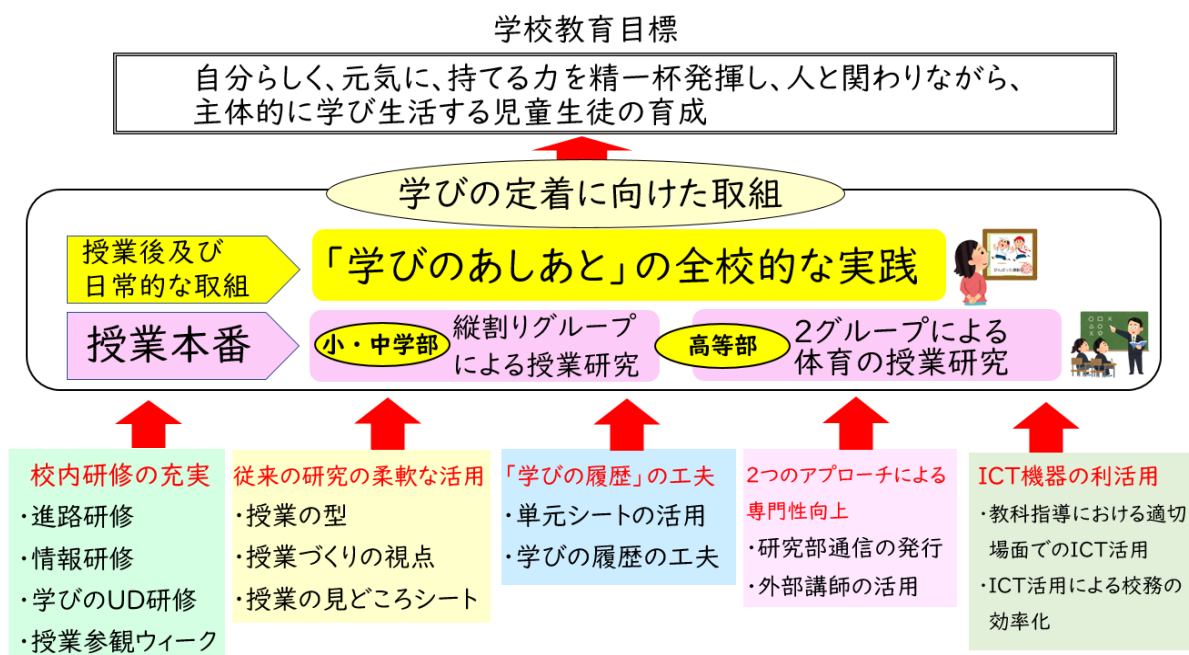
技能として身に付け、目標達成につながる課題を自身の手で解決に導くこと

「活用できた!」

授業の中で身に付けた知識・技能を、日常生活に生かすこと

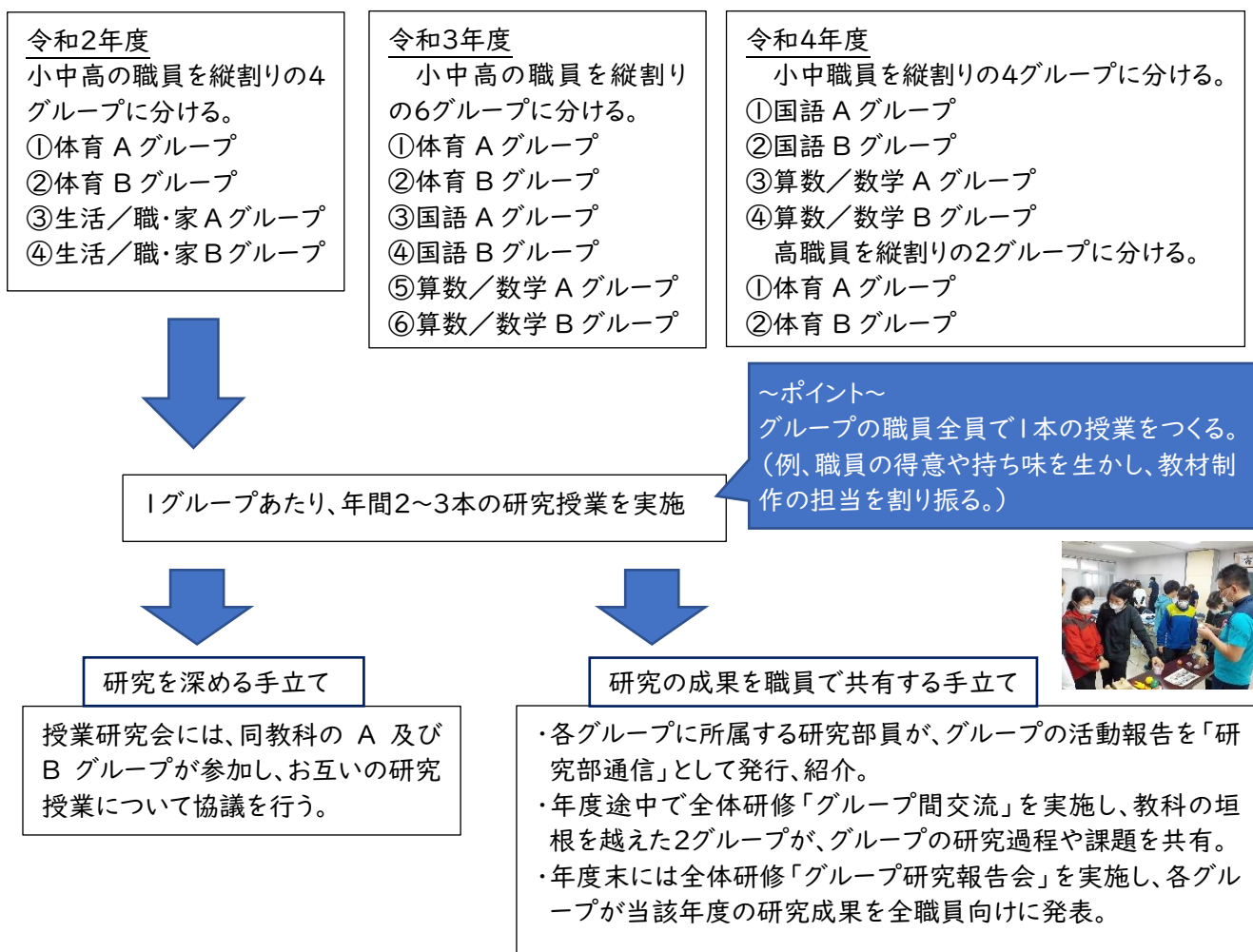
研究1年目（令和2年度）は、後述の各種取組の一つとして、授業研究会の充実を図りました。目標達成につながる授業の在り方を追究することは叶いましたが、一方で「身に付けた力の定着に至らない」という壁に直面しました。アンケート等で職員全体で考える中で、学んだことの定着には「良い授業実践と、その後の働きかけが要になるのではないか。」という仮説にたどり着きました。令和3年度と4年度が同テーマであることの意味につきましては、「令和4年度の高等部移転後は、様々な面で業務に慣れていくことが先決である。」と考えたため、研究についても、敢えて別々の校舎間において、前年度と同じように取り組むことを目指していくことで、教育活動が軌道に乗ることを、第一優先としました。

3 研究の構想図



4 取組の実際（一部）

（１）授業研究の方法



（２）授業参観ウィーク

令和2年、3年は、「授業参観ウィーク」という期間を校内で設けました。他学部の授業を、校内職員が自由に参観し、授業に関して意見を交換したり、互いの実態を共有することで、学部間のつながりを強化したりすることが目的です。年に1～2回設けており、「UDの視点で指導・支援や環境設定を眺め、学び合う」等のテーマをもって実施したこともありました。



（３）校内研修の充実

天草支援学校の長所と課題を鑑みた際に、全体の授業実践力の向上を図る為には、「多くの職員を巻き込本校に置かれた各分掌部に対し、研修の実施を依頼しました。例えば進路指導部には「将来の進路課題を意識した授業づくり」、情報教育部には「学びを支える ICT 教材」、教育支援部には「UD 研修」を依頼し、実施に至っています。

(4) 学びの履歴シート

＜題材(単元)の指導計画＞					△もう少し ○おおむね達成 ◎十分達成			
実施日 月 日	時	学習指導要領 内容	題材(単元)名	題材(単元)の内容	参考資料 (教材)	題材(単元)の目標及び個人の評価規準	評価	記録
						【知識・技能】		無記入状態の枠
						【思考・表現・判断】		
						【主体的に学習に取り組む態度】		
4 5	22 6	2	サ 生命・自然 【動物の飼育】 【季節の変化と生活】	春を見つけよう 1 春の特徴や生息する草花や生き物について知る。 2 春の草花や生き物を探しに出かける。 ※校内・校外 ※2年生時、9月頃新休バス停の周りを散策	・春に生息している植物や生き物の名前について知り、学校周辺を散策し、見つけたり、特徴に気づいたりする。	【知識・技能】		前担任が年度末までに記入する分
						【思考・表現・判断】		
						【主体的に学習に取り組む態度】		
4 5	22 6	2	サ 生命・自然 【動物の飼育】 【季節の変化と生活】	春を見つけよう 1 春の特徴や生息する草花や生き物について知る。 2 春の草花や生き物を探しに出かける。 ※校内・校外 ※2年生時、9月頃新休バス停の周りを散策	・春に生息している植物や生き物の名前や存在について知り、学校周辺を散策し、見つけたり、特徴に気づいたりする。	【知識・技能】 春に生息している生き物の名前を知ったり、大まかな特徴に気づいたりしている。	◎	現担任が個人の評価規準及び評価まで記入した文
						【思考・表現・判断】 学校周辺を散策しながら、春に生息している生き物を探したり、見つけたりしている。	◎	
						【主体的に学習に取り組む態度】 春に生息している生き物を見たり触ったりして気づいたことや楽しかったことを伝えようとしている。	△	

上図は、現在本校が使用している「学びの履歴」を記録するシートです。以下の点に留意しています。

- ①一人一人の年間指導計画に直接記録できるように、単元ごとの3観点の評価と、記述用の枠を設けている。
- ②記述については、特に次年度以降に、有効な情報となり得るについてのみ残すようにルール化することで、評価に追われるという状況の回避に努めている。
- ③前年度の担任を中心に、次年度の年間指導計画及び各単元の個人の目標を立て、次年度担任へ情報をつないでいる。

一方、以下は課題点です。

- 単元ごとの評価や記述による記録のみでは、「次単元目指してほしい姿」が見えづらい。
- 各単元と、その時期の学校行事や季節行事との関連が見えづらい。
- 個別の指導計画に基づいて、付けるべき資質や能力について、各単元との関連や計画が不明瞭であり、更に、単元と単元の連続性が曖昧である。言い換えれば、身に付けたい「3観点」の能力が、単元ごとにブツ切りの状態である。



(5) ICT の利活用

ICT の利活用については、今年度より新たな取組として取り入れました。本校は、「ICT の利活用」という面について、学校情報化の優良校を目指す段階にあります。今後各種研修によって、職員の専門性向上を目指しています。実態について、主観として捉えたものが左下の表記、そして客観的な評価を行った資料は次の資料になります。

情報教育				
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
ICTの基本的な操作の習得	基本的な操作スキルを習得させるための指導内容や頻度が教員個々に任されている	基本的な操作スキルを習得させるための指導が計画的に行われている	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導が行われている	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導の評価を行っている
情報活用能力の育成・評価	情報活用能力の育成を意図した学習活動の内容や頻度が教員個々に任されている	情報活用能力の育成を意図した学習活動が計画的に行われている	情報活用能力を育成する学習活動が指導計画に位置付けられ、学校全体として取り組んでいる	情報活用能力を各教科等の学習と効果的に関連付けて育成するためのカリキュラム・マネジメントが有効に働いている
プログラミング教育	プログラミングに関わる学習活動が教員個々に任されている	プログラミングに関わる学習活動が計画的に行われている	プログラミングに関わる学習活動が指導計画に位置付けられ、学校全体として実施されている	プログラミングに関わる学習活動が指導計画に位置付けられ、学校全体として実施されている
情報モラル	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業が実施されていないが、指導する内容や頻度が教員個々に任されている	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業が計画的に実施されている	児童生徒の情報モラルを指導・育成するためのカリキュラムを作成し、家庭、地域と連携しながら、計画的に実施されている	情報モラルを育成するためのカリキュラムを作成し、家庭、地域と連携しながら、計画的に実施されている
児童生徒のICT活用環境の整備	学習者用端末や無線LAN等が1人1台の活用に対応できるような整備がされていない	学習者用端末や無線LAN等の整備により、授業展開に応じて児童生徒が1人1台を活用する環境が整備されている	学習者用端末やアカウント、無線LAN等、全ての児童生徒が1人1台を活用しており、クラウドの活用、オンライン学習、持ち帰り等にも対応している	学習者用端末やアカウント、無線LAN等、全ての児童生徒が1人1台を活用しており、クラウドの活用、オンライン学習、持ち帰り等にも対応している

教科指導におけるICT活用				
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
教材研究・指導の準備・評価等におけるICT活用	ほとんどの教員が、授業の準備と評価のためにICTを活用している	ほとんどの教員が、授業の準備と評価のためにICTを活用している	すべての教員が、授業の準備と評価のためにICTを活用している	学校全体で、さまざまな評価結果をもとに、ICTを活用した授業改善に取り組んでいる
教員のICT活用	ほとんどの教員が、教科等の指導にICTを活用している	ほとんどの教員が、教科等の指導に日常的にICTを活用している	すべての教員が、教科等の指導に日常的にICTを活用している	学校全体で、教科等の指導に日常的にICTを活用し、より効果的な活用方法について研究している
学習の定着のためのICT活用	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等にICT活用がみられる	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等にICT活用がみられる	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等にICT活用がみられる	学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等にICT活用がみられる
ICT活用による学力向上	ICT活用が学力向上に効果があることを一部の教員が実感している	ICT活用が学力向上に効果があることをほとんどの教員が実感している	ICT活用が学力向上に効果があることをほとんどの教員が実感している	学校として、ICT活用が学力向上に効果があることをデータによって把握している
普通教室における指導用ICT環境	一部の普通教室に大型提示装置が整備されているが、または学年等で共有している	すべての普通教室に大型提示装置が常設されている	すべての普通教室に大型提示装置が常設されている	すべての普通教室・特別教室に大型提示装置が常設されており、実物投影装置やデジタル教科書等のコンテンツの活用が行われるよう環境が整備されている

- ・スライド活用を前提として授業を作っている場合がある。
- ・黒板及び ICT 機器の利点の整理にバラつきがある。
- ・具体物よりも ICT 機器使用、あるいはその逆の方が有効なのではないか、と考えられる授業が見受けられる。
- ・「特定の学習ソフトを活用した方が定着につながりそうだが、授業者はパワーポイントとインターネットしか知らないのではないか。」という意見が聞かれる。

(6) 学びのあしあと

①環境面

- ・児童生徒目線で、学びの内容、記憶が思い出される。
- ・定期的に更新される。
- ・学級の特徴が表れている。
- ・UDの視点が取り入れられている。
- ・愛が感じられる。

-実際の取組-

- ・授業で使用したワークシートや作品の掲示
- ・活動の様子の写真の掲示
- ・使用したスライドの掲示



【月ごとの活動写真】



【授業使用したスライドを用いて図解し、掲示】

(2) 活動面

- ・既習事項が生かされる単元の計画・実施
- ・ヤマ場のある授業
- ・宿題、係活動との関連
- ・休み時間の過ごし方の工夫



【昼休みに運動に励む中学部生徒】



【前年度と同じ教具を用いることで、既習内容を思い出す】

-実際の取組例-

【体育】

- ・5月 体づくり運動(様々な姿勢からの走り出し)
- 2学期 陸上運動(タイムの計測)
- ・表現運動でダンスを扱う→学校行事で披露

【算数】

- ・長さを比べる学習→高さを比べる学習
- ・3までの数 → 給食当番(牛乳の個数を数える係)

「授業をやりっぱなしで終わらず、授業後の取組によって、学んだことの確実な定着を図る」という意図をもって始めた「学びのあしあと」です。当初、本校の研究部からは、環境面からのアプローチを提案していました。授業研究会を重ねるごとに、職員の方から「活動面における取組も、学びのあしあととして、十分な機能が期待されるのではないか」という声が上がるとなり、徐々に広がりを見せています。

5 最後に

児童生徒の自立と社会参加に最も直結する手段こそが、日々の授業である、という考えのもとで、学校全体の授業の質向上に向け、様々な取組を行って参りました。また、取組を思案する上で、「徹底」と「継続」が可能であるものを大事にしてきました。しかしながら、未だ課題は多く、高等部移転等、本校を取り巻く状況は常に変化します。だからこそ、今私たち教師に求められるものは、「身近な変化や課題に気付こうとする目を持ち、必要感をもって学び、行動すること」と考えます。

上記の具現化の一つとして、本年度後期は、これまでの研修資料や現在本校にて用いている各種シートの様式について、精力的にホームページにアップロード致します。このことにより、本校のこれまでの各種取組を整理するとともに、センター的機能の一環として、天草地域をはじめとした特別支援教育の発展に貢献に寄与できればと考えております。

今後の配信にもご注目ください。

【配信予定】

- これまでの研究部通信
- 学びの履歴シート様式
- 本校の授業の型
- 授業づくりの視点
- 職員研修で用いた各種資料

